

「葉とらずりんご」の着色管理における玉回し作業の省力効果

「葉とらずりんご」栽培において玉回しのみでの着色管理を行った場合、作業時間は慣行の20%程度と省力性が高く、また、着色の目標値(選果機値)である「着色度130以上、均一度60以上」の果実を安定して80%以上得ることができます。

着色管理作業として玉回しのみを行う場合の作業時間は慣行区(摘葉2回、玉回し1回)の20%程度となり、省力的です。

表1 着色管理作業時間

試験区	作業時間(分)			合計
	摘葉	玉回し	摘葉+玉回し	
管理なし	-	-	-	0.0
軽摘葉	17.8	-	-	17.8
玉回しのみ	-	6.3	-	6.3
慣行	16.5	-	13.0	29.5

作業人数2名、200果あたりの作業時間

ふじの着色系統を用いた葉とらず栽培では、玉回しをみの管理により、「葉とらずりんご」の着色の目標値である「着色度130以上、均一度60以上」の果実を安定して80%以上得ることができます。更に、目標値より着色の優れた果実の比率も高くなります。

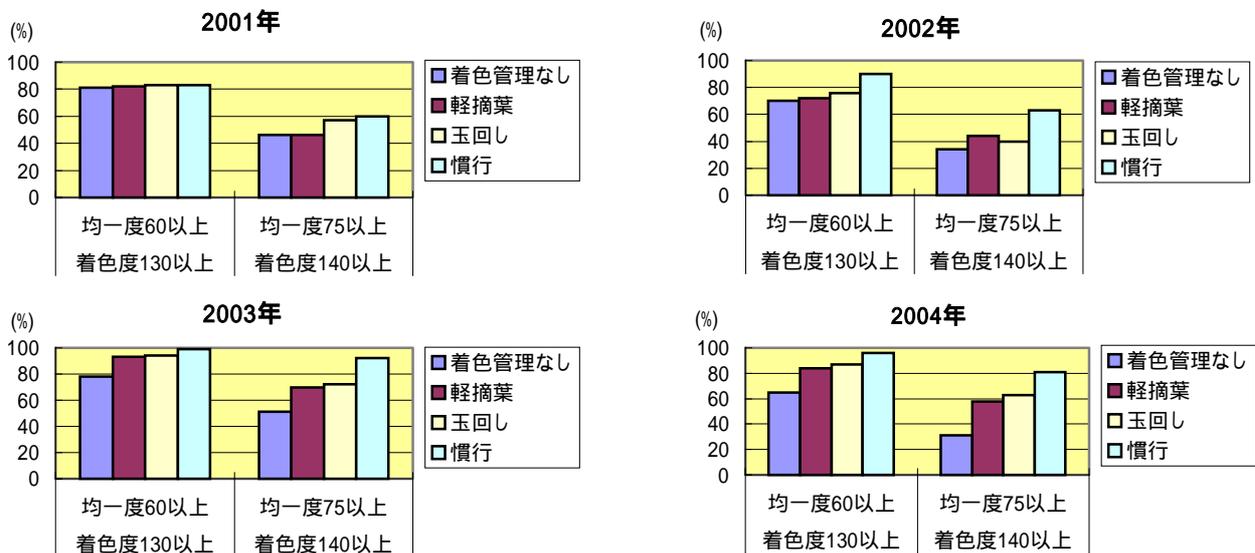


図1 着色と均一性の比較(全果に占める一定品質以上の果実の比率)

留意事項

- ・着色系統の利用が前提です。
- ・マキ製作所製選果機(MCS-3000)における着色度130以上、140以上はそれぞれカット値で4以上、5以上に相当します。また均一度60以上、75以上はそれぞれ均一性指数3以上、4以上に相当します。
- ・着色向上のため、樹勢調節に留意してください。